

チャレンジ項目記入数 6

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		要所にてポスターを貼り、経営理念を可視化している。常に意識できるよう会議での声かけを行っている。								8	9								17
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		法令や規制の変更があった時など、社員全員が共有しているファイルに掲載し、既読の有無の確認も行っている。ポスター・リーフレットも利用し、より法令遵守に対する意識付けを行っている。																16	
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		全社員に向け、月1の全体会議で不正な事柄が発生していないか確認し、より公正取引を徹底するよう意識付けをしている。										10							16
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		自社の事業活動が、環境・社会に及ぼす影響を把握し、適切な措置をとる体制を整えている。施工ミス等が違法建築や破損に繋がるなど社会的影響が大きいことを日々理解し、現場担当者と職長との連携を密にし、安全教育も一緒に行っている。																16	
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		より効率の高い施工方法においてのノウハウなど、各人が培ってきた知的財産価値を会社として共有し、社内会議において教育を行い保護を徹底している。また、それが他社の特許・商標・著作権を侵害していないか確認している。								8.2 8.3	9							16	
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		取扱い担当者のみが扱うこととし、漏洩しないよう徹底している。社外に対するネット環境においてもセキュリティの強化に取り組んでいる。																16	
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		ステークホルダーとの情報交換を密にし、よりコミュニケーションを図っている。自社の活動が悪影響とならないよう、間違ったヒアリングとならないよう細心の注意を払っている。															16	17	
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●							5			8		10		12	13	14	15	16	17
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●										9		11		13.1				16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●		社長が後継者育成に努め、異業種交流やセミナーなど積極的に参加している。株式譲渡面でも対策を進めている。								8	9								17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●			1	2			5			8				12	13	14	15	16	17
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別・年齢・障がい・国籍・出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		雇用条件及び福利厚生において、差別のない体制・運営を行っている。ポスター・リーフレットなどハラスメント防止に努め、すぐ相談できる環境を整えている。				4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		各月に行われる各業者の安全衛生講習会に参加し、共有が必要と思われる事柄については、必読ファイルとして社内掲載し周知徹底に取り組んでいる。			3					8.8									
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		同一労働同一賃金のもと、雇用形態に関わらない公正な待遇(賃金・福利厚生等)を行っている。					5.5			8.5 10.2 10.3									
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためのワークライフバランスを推進している。	●		スタッフ同士が話し合い、業務効率化をより模索することで、残業時間の短縮や働きやすい環境を整えている。育児休暇や家庭行事での有休など事前に申請してもらい、各課で協力し合い休みを取得できるよう進めている。			3		5.5			8.5 8.8		10.3							
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		WEB講習・社外講座なども積極的に参加し教育に取り組んでいる。社内に限らず、広い視野をもって業務に活用出来る様にしている。			4	5.5				8	9								
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		会社費用にて全社員の健康診断を毎年実施し、健康維持への意識付けを行っている。くるみん認定を受けており、従業員の子育てをサポートしている。			3					8								17	
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		給与・昇進等に、人種・性別・年齢などの差別待遇は行っておらず、多様な人材が平等に活躍できる環境を整えている。【2025年3~4月にて 3名採用(学歴不問等)】			4.4	5.1 5.5				8.5 10.2 10.3								16.7	
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●		WEBが会議が常態化となり、より時間の有効利用に繋がっている。残業も軽減されており、新しい労務体制が整備出来ている。			3					8	9.1		11	12					
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●		DX推進として追加サーバーを入れ、各人のデータを保管管理を徹底し、業務効率に繋げている。連絡事項など、共有掲示板を利用し早急に伝達することが出来るようしている。								8	9.1		11	12					
	21	【プライバシービル】 ・プライバシービルに認定されている。	●					3	4				8	9			12					

チャレンジ項目記入数 6

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		廃棄物の削減の為、端材の使用や適切な数量を以て施工に当たっている。処理については契約の産業廃棄物により適切に行っている。【予定】2025年7月までに、産業廃棄物収集運搬を取得し、より知識向上に取り組む。			3.9			6.3						11.6	12.4		14.1	15.1		
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		エネルギーの使用量を把握し、要らない電気は都度消すなど電力量の削減に向けた取り組みを徹底している。							7.3							13				
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		エアコンの温度調整を管理し過度な使用も控えている。また、倉庫の照明器具を順次LEDへ移行している。【予定】2026年3月までにCO2排出量を把握する。		2.4					7.2 7.3 7.a						12.4	13	14	15		
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないよう配慮している。	●		ゴミを分別し、金属は専門業者に引き取ってもらい、ダンボール類はリサイクルとして活用している。【予定】2025年7月までに、産業廃棄物収集運搬を取得し、より知識向上に取り組む。					6.6									14	15			
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		リサイクル可能な製品を理解し、適切に分別出来るよう学習している。リーフレット・ポスター等を利用し、社員の意識を高めている。							9.4					12.2 12.4 12.5		14.1	15			
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		ポスター・チラシの掲示にて可視化し、社員の意識を高めている。各月の使用水道料を確認し節水に取り組んでいる。		2.4				6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15		17	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		紙の購入時には、再生紙利用を推進している。							9.4					12.4 12.5	13	14	15			
	29	【食品ロスの削減】 ・食品ロスの削減に取り組んでいる。	●			1	2			6.4								12.3		14	15		17
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●														11.6 11.7		13.1 13.3		15		17
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●		倉庫証明をLED化に順次移行していくことにより、CO2削減に取り組んでいる。						7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3						
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・"伐って、使って、植えて、育てる"の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●							6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13			15			
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●							6.1 6.3 6.6							11.3 11.4 11.5	12.2	13		15		
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●		引き続き、環境汚染対策への意識向上を促し、マイボトルの持参・マイバックの利用を推奨し、プラスチック製品の利用を削減するよう進めていく。											12.2 12.5		14					
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.2		13.1 13.3						
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●													11.6 11.a	12.8	13				17.2	

チャレンジ項目記入数 6

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																	
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		メーカー作成の安全データシートを取得し、安全性を確認した上で製品を提供している。また、商品使用時の注意事項など口頭でも伝え、必要に応じて施工手順書・仕様書も準備している。			3.9						9			12.4						
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		ピクトサインを設置することで、初めての人にも利用しやすい環境を整えている。									9.1	10	11.7						17	
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。	●				2.3 2.4						7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。	●									7					12.2	13.1			15		
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。	●			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に取り組んでいる。	●				2.3 2.4						8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15		17	
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		事務所・倉庫周辺の清掃を積極的に行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		全体会議において、ハザードマップの確認やBCP対策の話し合いをし、避難行動計画や事前対策を共有している。				4							11.5		13.1			16		
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。	●			1.5		3	4							10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。	●											9		11	12	13.1					
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。	●			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。	●						4					8.6		10.2							17
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。	●		地元人材を積極的に雇用している。【 令和7年3~4月にて3名の雇用実績有り 】				4.4					8.5 8.6								17	
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。	●				2		4.3 4.4 4.5					8.6		10.2		12	13	14	15		17

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。